

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (1) 企業活動の促進・働く場の充実

(評価担当者)

産業建設部長 大澤 哲也

基本施策が目指す姿

多様な企業が、市内に立地し、事業活動を活発に行うことで、雇用が創出されています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	企業立地・事業拡張件数	件	-	H27	0	1				10
2	製造品出荷額等の額	億円	10,495	H26	11,766	9,613				11,200
3	製造業の従業者数	人	9,701	H26	10,088	10,235				10,200
4										
5										

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 企業活動が活発に行われている	重要度	1.24	1.29	企業活動の活性化、働く場の充実のいずれも重要度は特に高い。満足度は、低いものの前回より上昇しており、これまでの取り組みの成果が表れていると考えられる。引き続き積極的に施策を展開し、満足度の向上に取り組んでいくが、亀山・関テクノヒルズに進出決定した企業の操業開始が待ち望まれる。
	満足度	0.37	0.15	
2 働く場が充実している	重要度	1.46	1.39	
	満足度	0.64	0.44	
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>B</b> まずまず進んでいる	平成30年度において産業振興奨励制度を活用した設備投資、操業開始には至っていないが、亀山・関テクノヒルズ新10区画に5社(8区画)の企業進出が決定し、持続可能な産業構造の構築は、順調に推進できている。 また、雇用対策協議会事業及び商工会議所との連携事業による既存企業の活性化、及び、雇用対策協議会を中心にハローワークと連携した雇用確保の機会提供など雇用の創出と働きやすい環境づくりは、概ね推進できている。 さらに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への参画など企業との連携によるまちづくりは、概ねできていると考えられる。以上のことから総合判定をBとした。
反省点・課題	
<p>亀山・関テクノヒルズの新10区画へ進出決定した企業に対し、円滑な操業開始に向けてサポートを継続していく必要がある。 本年3月に県内本線が開通した新名神高速道路など高速道路が結節する利便な交通アクセス、さらにはリニア駅の誘致など、本市の立地環境におけるポテンシャルは今後、さらに高まるものと考えられ、引き続き、既存企業の事業拡充はもとより、亀山・関テクノヒルズの残区画への企業誘致を積極的に進める必要がある。 なお、働く場の充実という視点からは、製造業については充実しているが、流通、サービス等の第3次産業分野は薄い。</p>	

今後の展開方針

継続して広域的なネットワークを有する県や産業団地の開発主体、金融機関等との情報共有など連携し、立地検討企業の把握やスピード感を持った企業対応に努めるとともに、産業振興奨励制度や本市の立地特性を効果的に情報発信し、幅広い業種での企業誘致を展開していく。  
また、進出決定企業に対して、産業振興奨励制度の活用など円滑な操業開始に向けてサポートを継続するとともに、雇用対策協議会主催の求人懇談会やハローワークと連携した企業就職面接会を引き続き開催するなど、既存企業及び新規進出企業の雇用確保にも協力していく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		持続可能な産業構造の構築					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	土地取得に対する支援や新規雇用者要件の緩和など、平成29年度施行の新たな産業振興奨励制度により、既存企業や進出を検討している企業に対して、制度の周知、活用を促し、企業誘致に取り組んだ。		平成30年度においては、新制度による設備投資、操業開始には至らなかったが、平成30年3月に完成した亀山・関テクノヒルズの新10区画へは、既に5社(計8区画)の進出が決定し、様々な業種の企業集積により、持続可能な産業構造の構築は、順調に推進できている。			
		順調に進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17061	産業振興奨励事業		主	52,912 / 49,920	A	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		既存企業の活性化					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山市雇用対策協議会事業により定期的な情報交換の場を持ち、企業間交流を促進した。また、亀山商工会議所と連携を図り、専門家派遣事業など、販路開拓や商品開発等による経営力向上を目指す市内の中小企業者等を支援した。		亀山市雇用対策協議会の事業を通じ、新採研修や実務者研修などを開催し、積極的に既存企業間交流の場を設け、企業ニーズの把握に努めるとともに、亀山商工会議所と連携した事業により、既存企業の活性化に向けて概ね施策を推進できている。			
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5003	団体支援事業(労働者対策事業)		標	2,005 / 2,005	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		雇用の創出と働きやすい環境づくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	雇用の創出に向けて、亀山市雇用対策協議会事業として「高校指導主事との求人懇談会」や「親子と企業の懇談会」、さらにハローワークと連携した就職面談会を開催した。また、労働力確保が非常に困難な雇用情勢の中、労働関係機関が集まって意見交換できる場として働く環境づくり懇談会を開催した。		亀山市雇用対策協議会の29会員事業所で新規採用があり、新規採用者総数211名のうち、160名が県内高校の卒業者であった。また、働く環境づくり懇談会により、中小企業等の働き方改革に理解を深めたことから、概ね施策を推進できている。			
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5002	融資対策事業		標	29,500 / 29,500	B	B
事業以外の取組	5003	団体支援事業(労働者対策事業)		標	2,005 / 2,005	B	B
	内容					活動	成果

施策の方向		企業との連携によるまちづくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	市内事業所等に対し、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への参画を働きかけた。また、亀山商工会議所による市内の小学生を対象とした地域企業の魅力を伝える職業体験イベント(カメジョブキッズ)の開催を支援し、企業のCSRにつながる企画となるよう働きかけた。		市内企業約40社から参画を得て、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会が設立された。また、カメジョブキッズの開催により、事業者・商工会議所・行政が一体となって、地域企業の魅力を発信し、小学生のキャリア教育を推進するなど、CSR活動の支援を進めており、概ね施策を推進できている。			
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	18002	地域企業魅力発信・子どもの職業体験支援事業		主	1,200 / 1,200	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果